

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	澤田 匡人	所属	宇都宮大学教育学部 准教授
研究集会等名称	感情と社会的認知研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 7名 (うち認定心理士 1名) 非会員 7名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>&lt;目的&gt; 感情心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学など, 多くの領域にわたる研究者で研究集会の場をもち, 研究成果の共有や議論によって, 新たな測定法の開発や, 従前の研究知見の統合をめざす。</p> <p>&lt;成果&gt; 本年度は, 研究会を5回実施し, 感情が社会的認知に及ぼす影響 (例: 偏見, ステレオタイプ, 妬み感情, シャーデンフロイデ) に関する研究成果の共有と紹介, 社会的感情に関連した洋書および文献における知見の共有を行った。 これらの知見をベースとし, 2つの研究を行った。 <u>研究1</u>: 研究2の予備調査と位置づけ, 282名の大学生 (男性116名, 女性166名) を対象に, 質問紙による場面想定実験を行った。参加者の“自尊感情”と, 仮想場面において提示された人物に対する“妬み感情”や“シャーデンフロイデ”との関連を調査した。分析の結果, 仮想場面における設定 (登場人物の印象, 行動の責任の認知) が上首尾であったことが確認された。 <u>研究2</u>: 研究1で収集した指標の他に, 潜在連合テスト (Implicit Association Test) を用いて, 参加者 (男性27名, 女性41名) の“潜在的自尊感情”も測定した。その後, 研究1と同様に仮想場面を提示し, “潜在的・顕在的自尊感情”と“妬み感情”, “シャーデンフロイデ”との関連を検討した。分析の結果, 潜在的自尊感情はシャーデンフロイデを抑制せず, むしろ促進する可能性が示唆された。この点については今後の検討が必要である。</p> <p>&lt;将来計画&gt; 上記の実験結果を来年度の学会にて発表し, 論文化する予定である。</p>		